

東都家事記

夏

三



兩圀橋邊動櫂歌
江樓涼月

水微波怪來岸上聲寂恰

是扁舟
過
祖
來

江戸歳事記卷之二夏之部

四

朔日 ○ 更衣 コロモタエ

今日より五月四日迄貴妙袷衣を着せ今日より九月八日まで足袋と
えうげ庶人草羽織とを穿け

○龜子天滿宮雷神祭七日迄修好

本より雷仲末加牟臣美仲とあり雷難除と
なり今月より八月晦日迄雷難除の古れと云々

○深川靈巖寺彌陀經十回修行卷

この間及
糸結

○菓の湯者々より燵ヒを塞フいて風呂を用ふ但し九月晦日ツキノヨロより

初卯日○欽炮洲漆稻荷社祭礼

稽翁ちーの際あり
 午の月近き事あり
 祚を甫^ハ_キ^キ_キ^キ_キ^キ_キ^キ_キ

○山峯去より合力稲荷社卯花祭
巫祝即ちと持て舞仕儀指ま林能と持て夕なり
執事弟徳院もといけ稲荷と云流地六町の徳寺之南小田原町
より竜虎の頭と獅子頭の如くは限りなきなりとて町を渡る

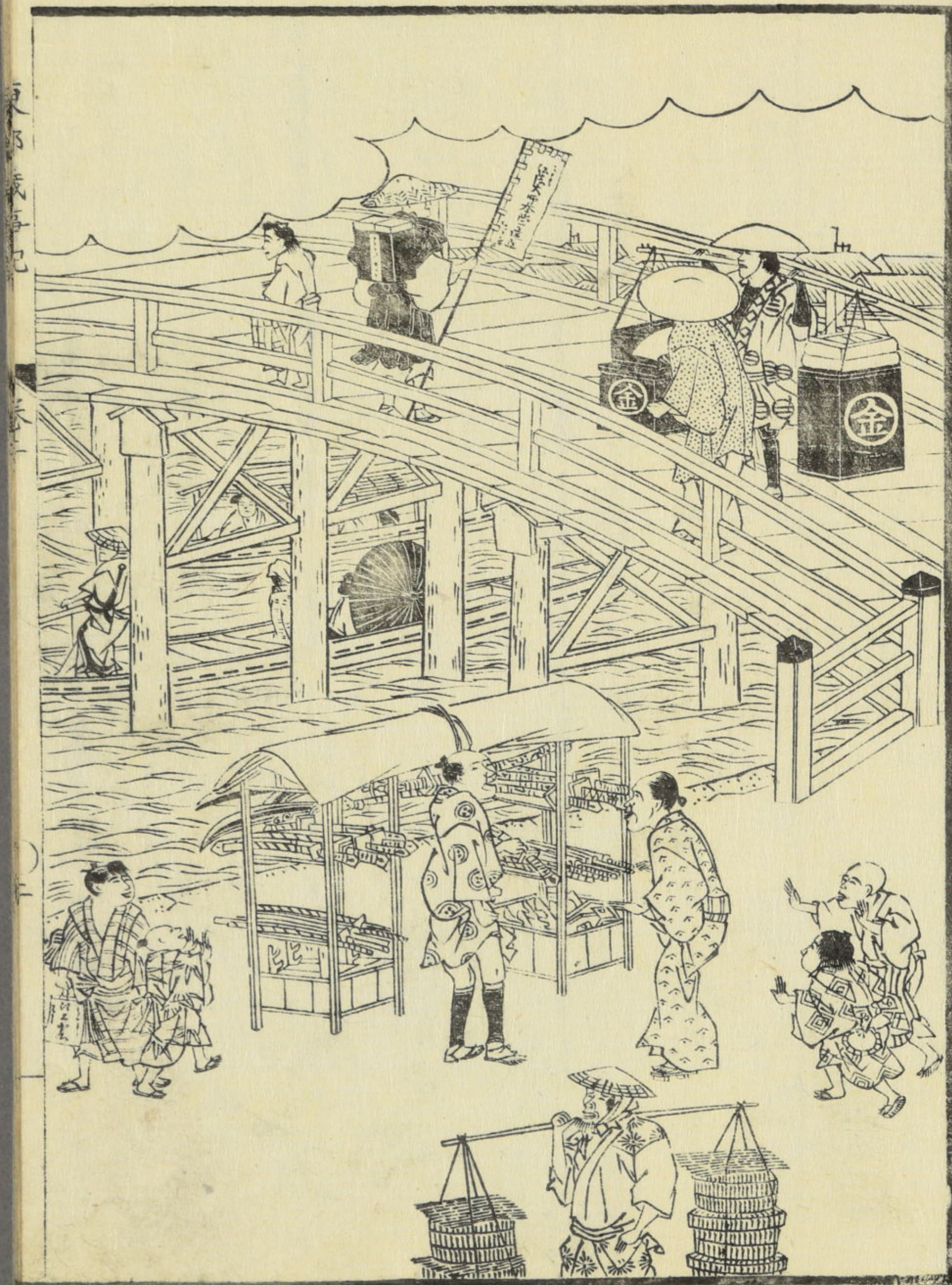
之日○奥澤村淨真寺

佛九品

彌陀經千部十二月追修行記

本芝杵木町の商家
多^ト明^バ屋^ヤ某毎年子^コ初^{ハツ}

の目送り花の石魔セキガイと挖サくこの香明庵の先祖之存なき妻難産ふく死せしを冥妻
之存なき英は伊皿子大田との市化月峯う長中ふ告て云永存生の時奥沃珂碩上人の
化益を乞うとそと不果して死ぬ今ハ血の赤の苦しく人々何卒その事



五
月

✓ 137

八
五

京師

入
膚

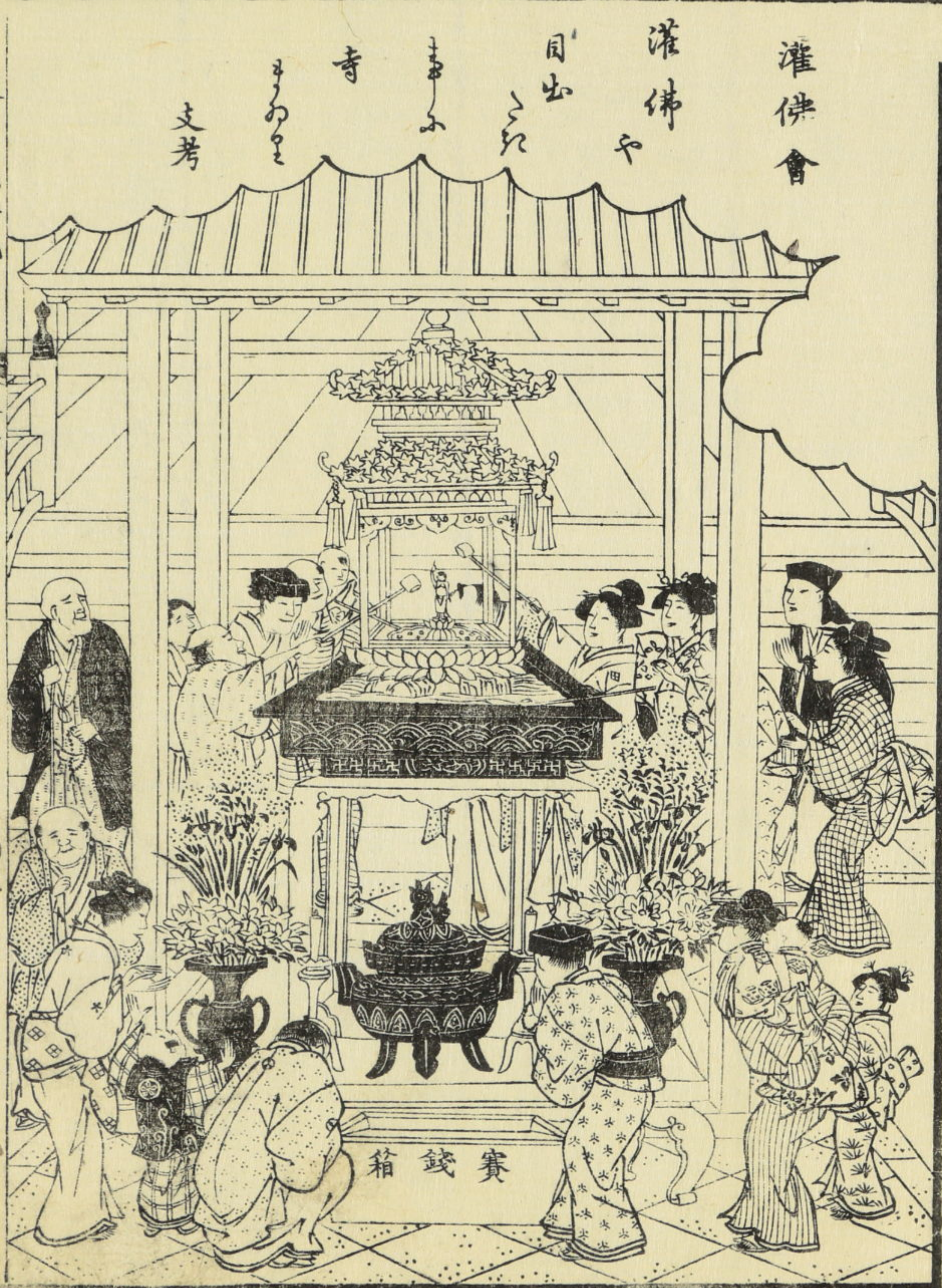
あ

七

十八日

2

卷一



五

増上寺安國殿 法系三社権現御相殿 寺本 同 町 新寺 源空寺 寺画 同 新

堀端松平西福寺 同 町 東漸寺 同 湯島圓滿寺 同 妻戀稲荷御相

殿 寺本 王子権現社地 高田穴八幡宮社地 音羽町養心寺 境内 寺本

深川三十二間堂御鎮座 寺本 本町靈山寺 寺画 本下川淨光寺 寺神

海保正 西久保大養寺 寺画 横田久保町 正伊藤氏 寺画 品川海晏寺

山 麻布廣尾天現寺 下総船橋大社宮社地 寺より 素徳寺 社より 武

文化十あり二子卯月十七日湯島より 寺より 新寺とあり 寺より 奉りて

○増上寺 恩本寺 同帳 ○品川東海寺 法寺 平次天王太々神樂無行

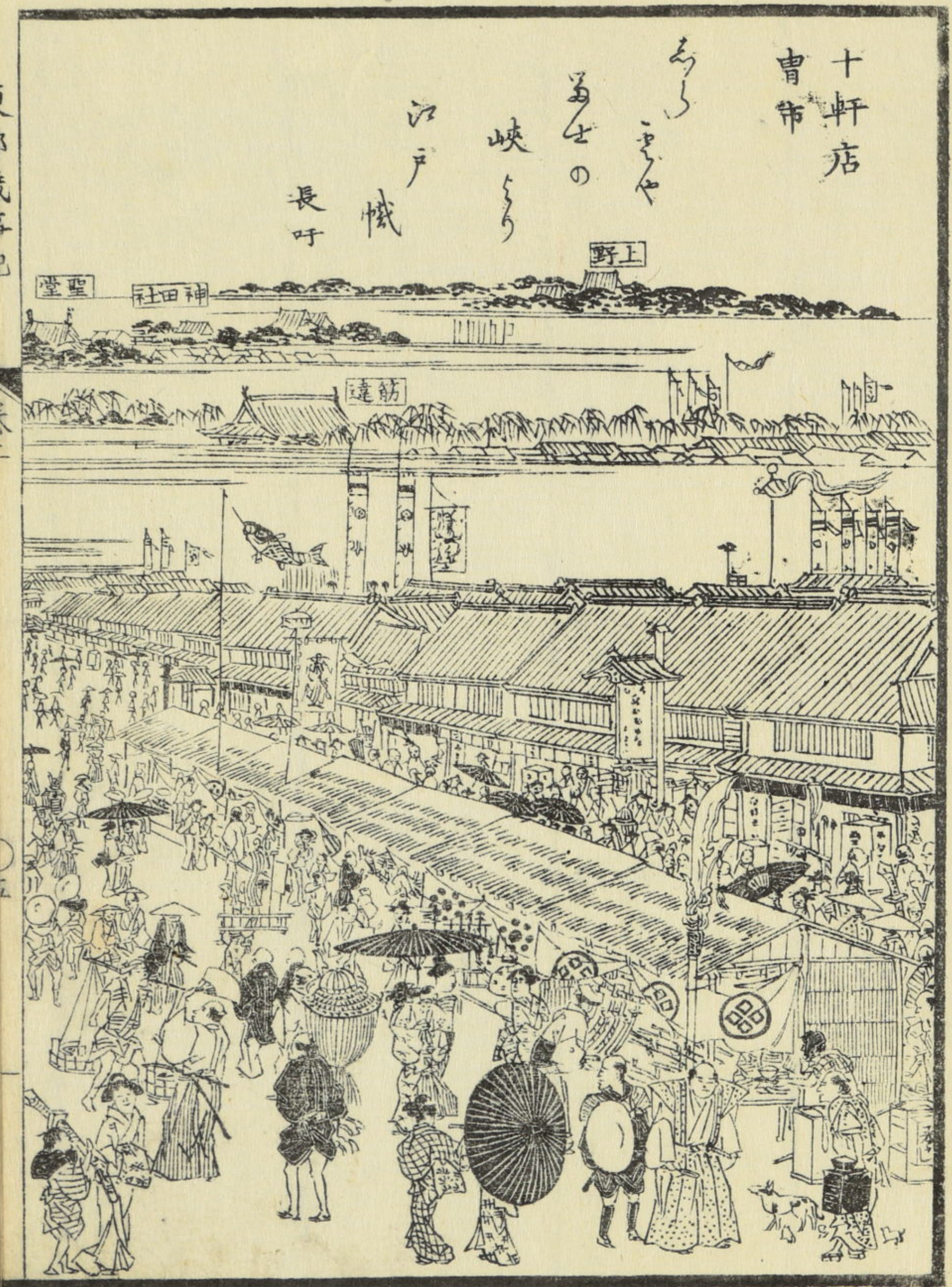
○當月中旬日定ら 新橋醫學館より 於て 藥品會あり 藥品より 見物とあり 寺より

産物医術の要圖より 近郊に 江戸は 寺より 医家の 寺より 寺より 寺より

廿一日 ○神田明神社太々神樂無行 神樂の 内へ 舞臺と 儲け 社より 校舎

廿二日 ○今日より 八月四日 近宵人形 萬葉刀藏の市立 場より 八月の 雛市 同

廿三日 ○今日より 八月四日 近宵人形 萬葉刀藏の市立 往還ふ小町と 橋へ 甲曳より 宵



○男子あるが、夫より今日より六月三日迄のやりとをやる
○府中の下の宮の神主品川素和明神社の流きより堀離より六月六日乃祭礼
また斎とをやる

晦日○龜戸天満宮神御衣祭

圖の時冬の御衣と夏の御衣より更奉るの事と
非あまつま一枕とのこゝる余の非枕へあはれ

消して供するなり

○五月より金魚ひびき 麦^{ムギ}魚^{イサ}木^キ街^{ガイ}と賣あるく金魚よりさんらんうろ尾^{ビレ}を
尾^{ビレ}小^コあ^アい^イ何^{ナニ}も^モ さ^サら^ラさ^サい^イと^ト 数^{スウ}あり^リ而^ニく金魚^{キンギョ}尾^{ビレ}種^{シュ}と育^{イク}を

○
初堅魚
東越よこの魚を賣するは他邦は猪を相州より送るに味ひ美く鄙俗
の者も其價と少くして是と求む前夏の頃より鮮魚を擧て街より商人

そ聲高くいさぎよし「うまくはいきて出らん初めを芭蕉」大勢のすへ一本のをうる嵐雪
人のまゝとまゝわくらぬをい其角「目よくききふやくきけ初めを素朴」

○け月より蚊蠅愛せ。宝永の末大坂きては秋美太史とて、説経は名と稱し、若生玉の茶店を、朋友と喧嘩し、乃ち疵を與せしより、相場と退き、江府より駿河町へ住居せしより、一年、呉服屋の蚊蠅を、病持ふ、雇まり、えぎのうやといふより、以て事



物景

生地の美声と出でて賣出りては人美なりとては年数をたしめたり
乞蚊を賣出らるゑの始なり由江戸塵拾とては年数をたしめたり

杜鵑トビ○ 五月の末より堀留の園庭内をうろちては年数をたしめたり
大うゝ立夏を過ぎてより啼初るは江戸の辺とては年数をたしめたり

小石川ハクサン白川の辺 流るる水の音は初めの里の名なり
高田難司り谷田谷邊 大番町

後河原 新原より 神田社谷中 芝増上寺 杜鵑田川の辺 根津里根津辺

牡丹○ 立夏より二三日後 深川永代寺 近年 谷中天王寺中 長明院 庭中田の
紅ハナク白ハナク 寺あり

寺島村百花園 深井極本屋 尾久深山某庭中 寺の外あり極本屋あり
上水沢村鈴木某園中 三百余品あり大木多し片鄙とて○西より牡丹を賣

杜葛花カキハタ○ 立夏より二三 本下川淨光寺 茶師 境内 寺あり 吾妻森 八橋を架せり

寺島村蓮花寺 同百花園 根津極現境内池

藤○ 立夏より十二日め以後八日限まで 龜戸天満宮神社の傍 樓門の左右に桐あり
定より一年より大に遅速あり 寺あり

砂むく大智の境内 坂本因光寺世俗放てるとて近年あり
小日向若谷谷坊の寺あり 佃島住吉 鈴森八まん宮を名にせり

灯の花○ 夏至 目黒辺 奥澤九郎餅の辺 集鴨庚申塚より王子へは道

芍薬○ 小波 寺島百花園 百余年 あり 深井極本屋

五月

朔日 ○ 押上普賢并因帳子巻普賢不脱の如し
○ 柳島妙見宮開帳 ○ 浅草本法寺万巻陀羅尼廿二日まで修行

五日 ○ 端午祈祝儀諸侯祈登城粽献上有貴賤佳節を祝ふ
家々軒端は菖蒲 達とて菖蒲酒を

飲又角黍柏糕と製も小兒菖蒲の戯を多し ○ 武蔵八丈より町家より近七才以下の男子
ある家より戸外へ戯とて立寄人形小飾又坐蒲のやりと号して座中へうろちるは世の容易之候とて

鯉の形とてうろちりては戯とては年数をたしめたり
○ 貴族今日より麻の袴衣とて八月廿日よむ

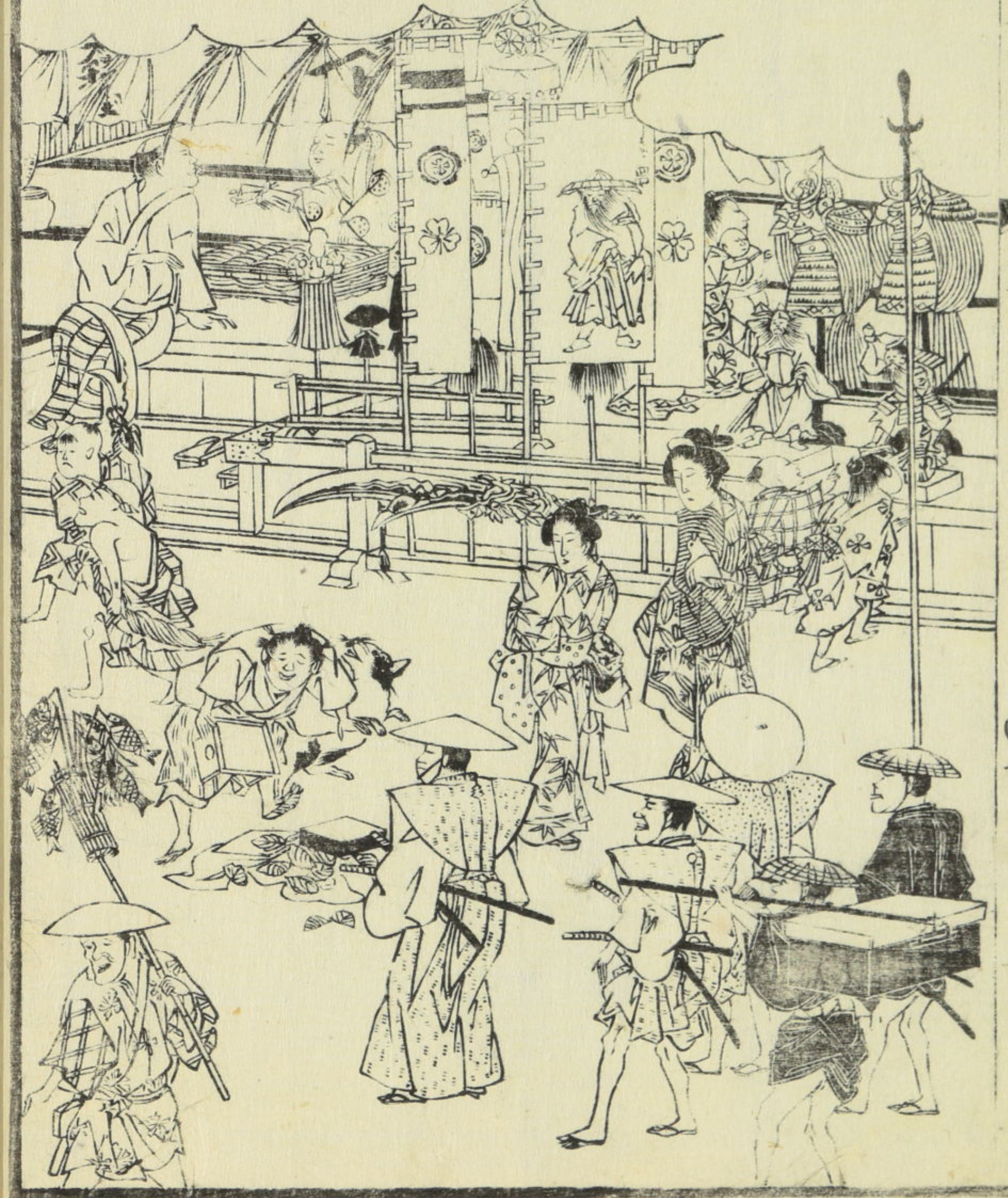
○ 三つ尾の魚もあやめ料半三河町の菖蒲やうろちるは秀和とてやあやめ士乃
峽より江戸職長とて子ハナハナ物ハナハナ子持筋不秋

○ 同是太島明神祭祀相撲無行 別當 大聖院 ○ 比上本門寺祖師更衣

○ 府中六所明神祭祀 林を渡渡氏今夜子刻林院并子鹿子の家路次のとてい
とありて減して園敷より新旅より林より奉幣終りて還興の

端午市井圖

武江已璧
四端午佳
節時々憶
洛城角糗
曾聞化龍
去世間斯
類復何驚
活所

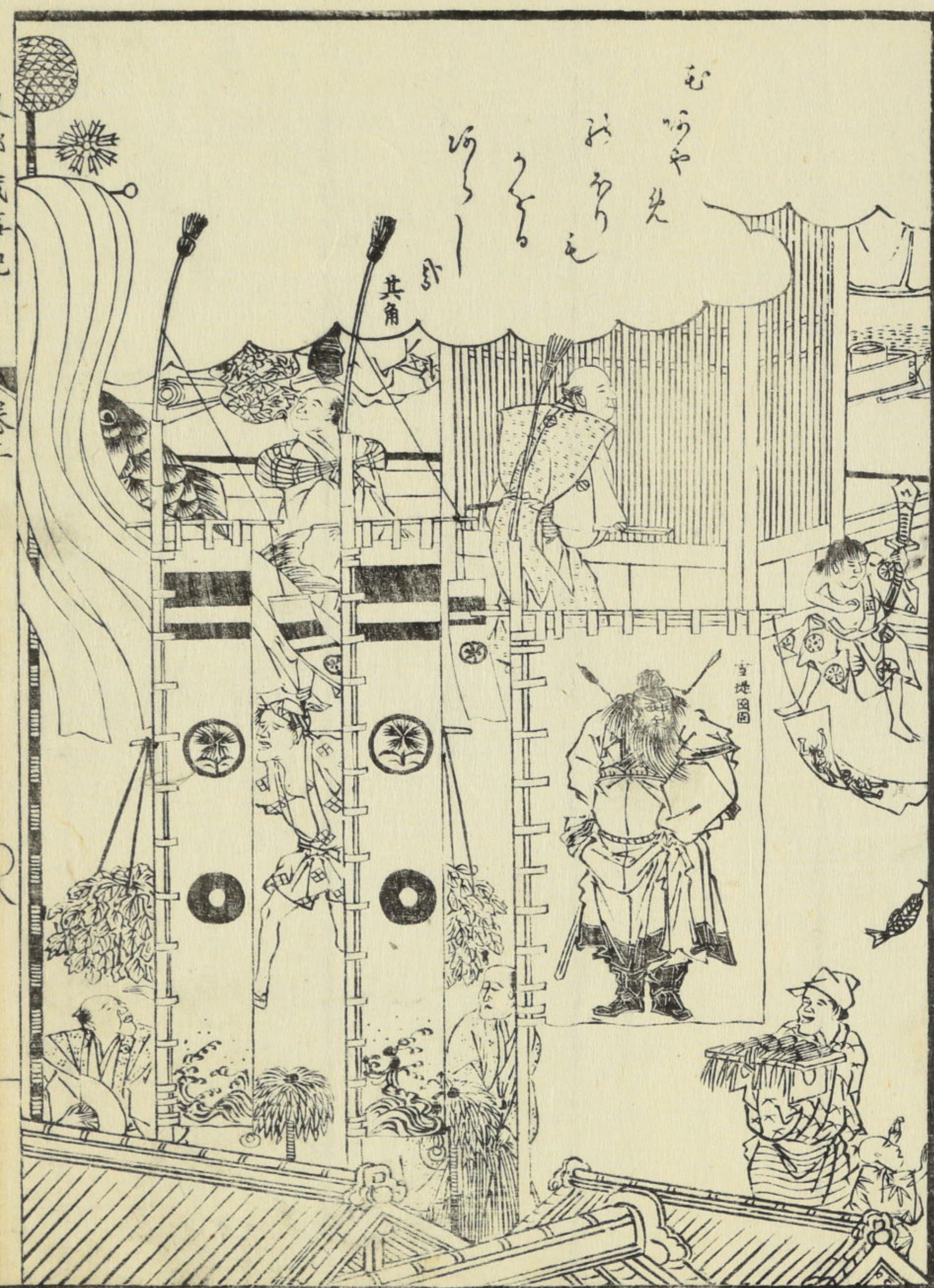


心
呵
先

河
々
々
々

其
角

古
堤
園



の時毎火と焚き煮子の葉挑灯影一々燃しきて神樂と供養を翌日田植の神子あり
祭祀の次第質素なり古礼を失くは是府外の大勢なり

六日○今日の日月白下不動本院まで垢離とて者群集を多し水と引て遊と遊なり
○諸人菖蒲湯に浴き○今日婦女子の佳節と稱して遊樂とて多し未だその嬉し
ところを知りて○五月八日の月より八日の日又八日二日布の裾をあり○麻布屋尾裾を祭

九日○龜戸天満宮太神樂無行
年の時萬歳樂と奏し神樂帶帛を奉り整えて神
太鼓鞆鞆拍子とて浄衣を穿て二人神樂成り
神樂と奏し甲子腰とて胡蝶を肩ひりと袖太刀を佩き白袍を穿て神人二人甲子白ひく
弦をひくあり

十日○小石川氷川神社神樂

十一日○下谷稲荷社湯花六座神樂○元服田町世継稲荷社十八座神樂○麻布稲荷神社
摩利支天祭十七日迄

十二日○源川森下町 神明宮神事昨日より執行 正月十日の如し

○堀の内妙法寺祖師同帳○法喜寺長遠寺祖師同帳○難習寺谷家城寺祖師同帳
その外法花寺院祖師同帳あり○螢沢宗林寺祖師同帳あり

十八日○芝金杉濱町法守汐干稲荷祭
十日より十日より稲荷神社祭あり

○同馬不動尊の地主早尾権現 大行司権現 青龍権現祭礼
祭礼あり

○下谷金杉村三島明神祭礼
祭礼あり

○今戸八幡宮二十座神樂○山谷正法寺毘沙門堂園中より子巻陀羅尼○掛島妙見宮同帳
○稲荷安盛寺妙見宮内神子巻陀羅尼○白金妙田寺妙見宮星祭○鎌土明神神樂

○青羽町田中八幡神樂無行

十六日○田谷東成院聖天宮神樂汐干とんあんの内あり

十七日○小日向上水端氷川神社神樂あり別為日輪寺○麻布一本松氷川神樂
○濱東焼う池明神祭 妙音院持○谷中妙橋寺日親上人像同帳

○妻恋の神神無行

十八日○難習寺谷鬼子母神堂子娘廿八日より修行 今日万巻陀羅尼
修行あり

○小柄原日蓮寺鬼子母神祭十七日より十九日まで修行内神あり

○本所出村本佛子鬼子母神神祭○本所稲荷田小奈本 上妙寺鬼子母神祭同帳

十九日○本所押上最教寺七面祭○寺田亮朝院七面宮同帳子巻だり○白金三浦坂氷川神社神樂
○沙羅寺神子巻明神神祭子巻陀羅尼○大宮八幡宮神樂○本所東場蓮宗院子巻神樂

廿日○平井聖天宮祭禮 別為神明寺 茅場町薬師如来同帳

廿一日○江法大師廟 河邊平有寺 西新井越持寺 毎月とて九月まで諸人を
○沙羅寺子巻稲荷祭

廿二日○谷中大田寺稲荷社子巻陀羅尼あり○説法内神あり
○沙羅寺七軒寺 町法長寺 稲谷稲荷祭 ○麻布六本木茅場坂の日輪稲荷神樂
○猿江妙法寺稲荷同帳子巻だり○子巻池東町稲荷祭

○源川砂村源川寺志演稲荷祭
宗院蓮宗修りあり砂村の越後寺あり専修乃以
新築の殿 台命の有りてを村の穀のいたる

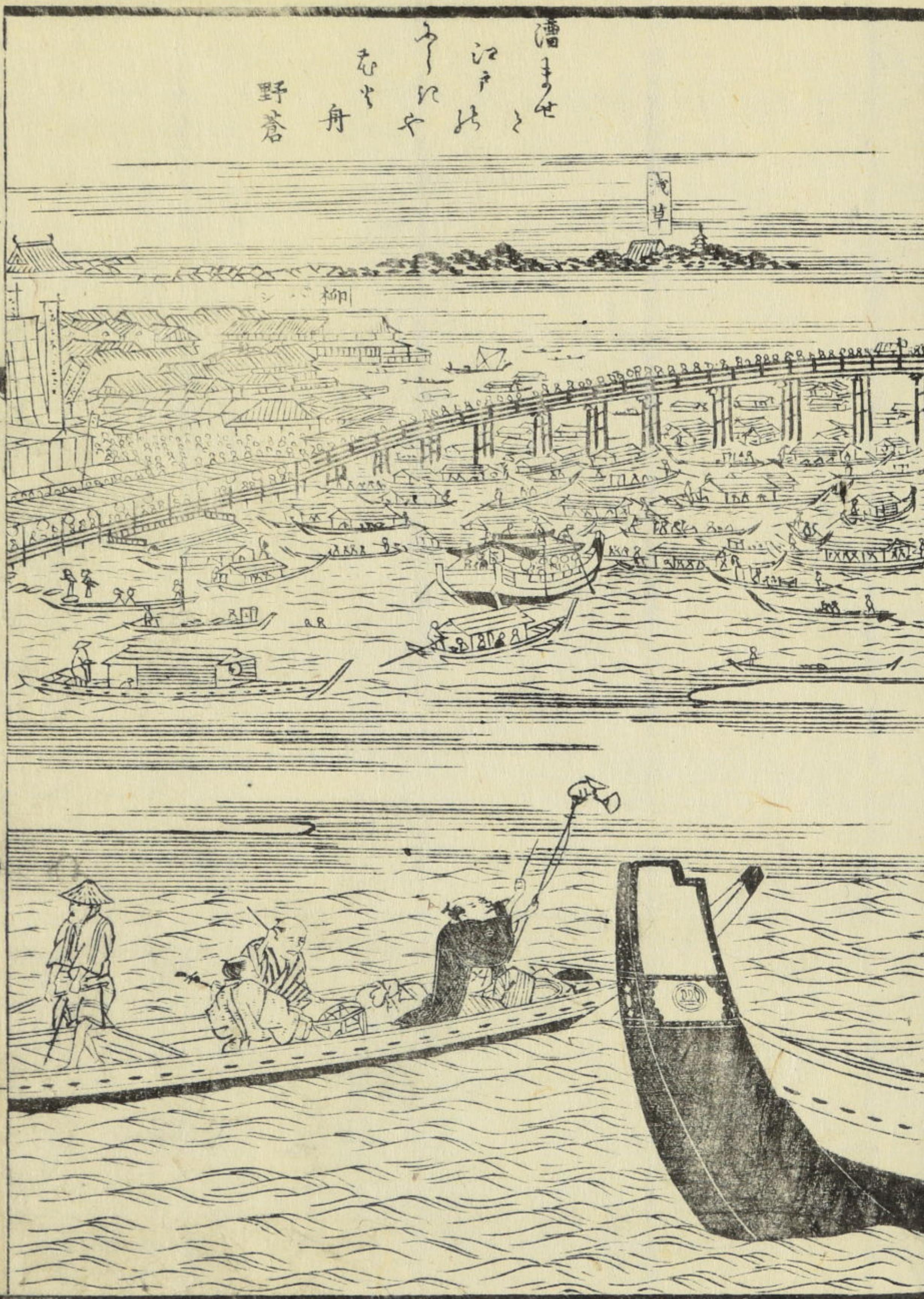
兩國納涼

長橋三百丈
影偃綠波中
人行天上
飄々躡玉虹
白石

所本



江戶
舟
野倉



晦日○今日より所々富士集巻六月初日のところから

八月の末よりハ英艦より
土へ貿易等なるの如き事

又ふより、河津川と第一とに、薪火の新は、とに多し。樓船の名は、望
 面史と、今、次第小減して、を恨み、本名同の、と多し、に多くなり。

屋形船ハ宝永の頃より時花出て百艘又極り——と云々東宝永と云々と大船の船よりまゝなり
續て魅市丸ハ市丸あり魅市ハ度發九間ハ庵本を留めるあり市丸ハ度發八間庵本二間
あり——船の名なり津田一丸と云々を津田川にて一番の大船あり——と云々天和の頃の屋形船
の畧目ハ東のひとりと云々又と云々の舟ハ竊屋丸と云々一人乗の舟吉永通ひの舟と云々

時分より土利をいぬの舟遊ふを角くくろきを船起屋寐々すみ全

○は月より冷お心太
白玉豚賣ありく
○鬼灯うゝつゝ賣あり

○田極
八月入柿のころより半夏生よりこゝ迄郊外豊
かきと調へ寄とくひて早苗とくひとかり

富賀岡

富士参

八幡文の乾の

隅より五月

晦日より六月

朝日よりむて

山とふ登る

とやうす

うまれ

日乃

うしろ

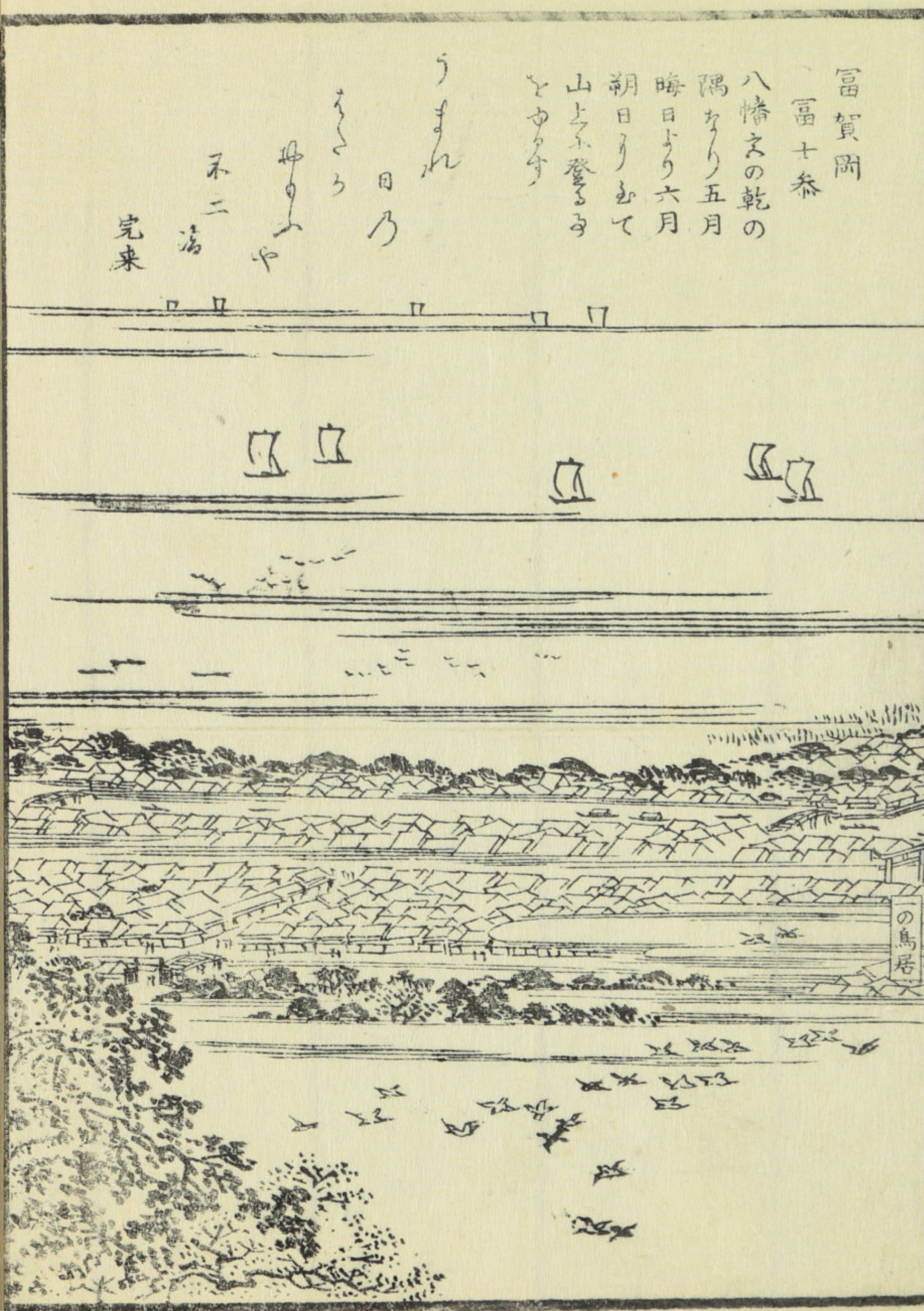
ゆり

や

不二

法

完来



の鳥居

江戸名物

是も

富士

乃

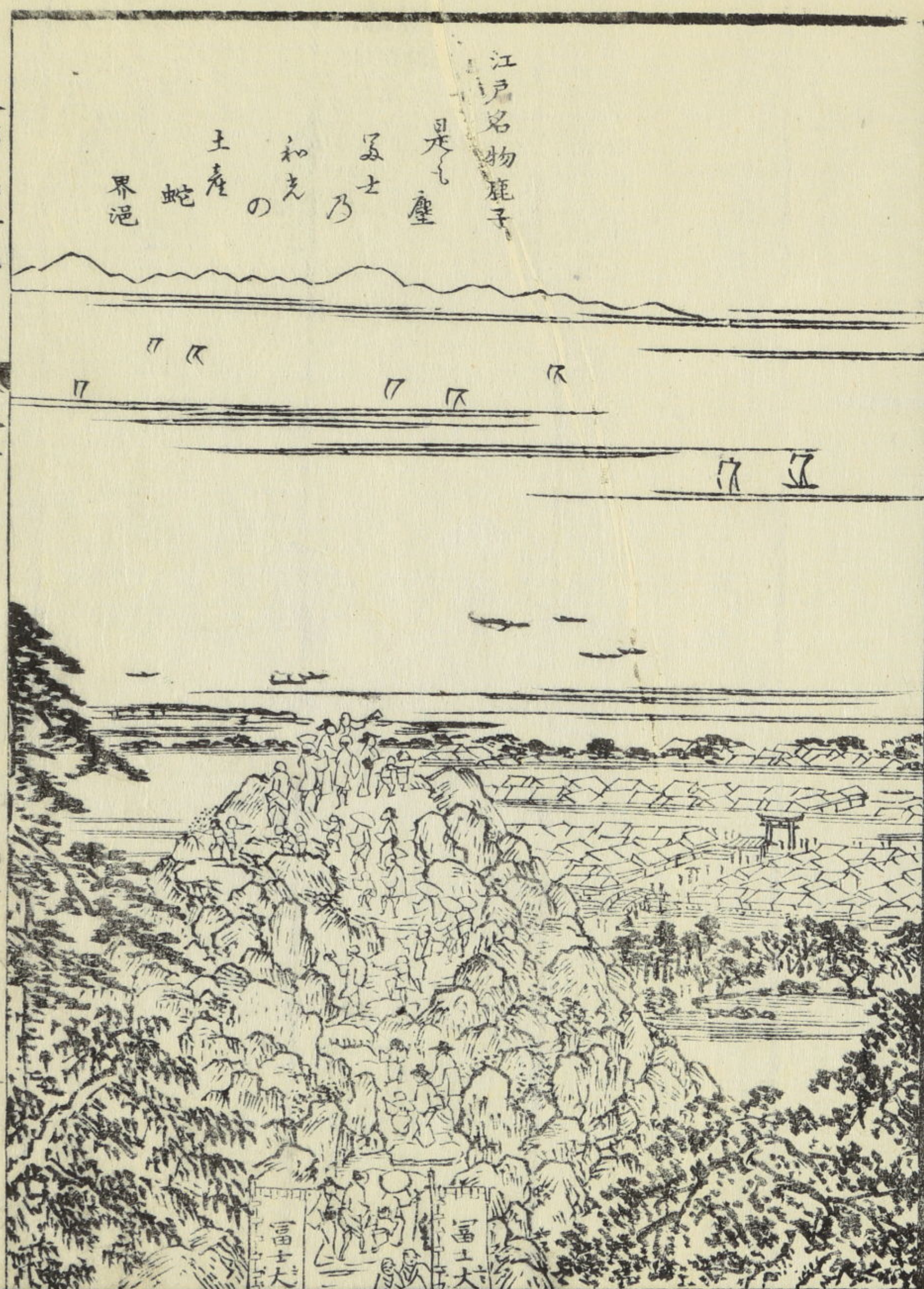
和光

の

王座

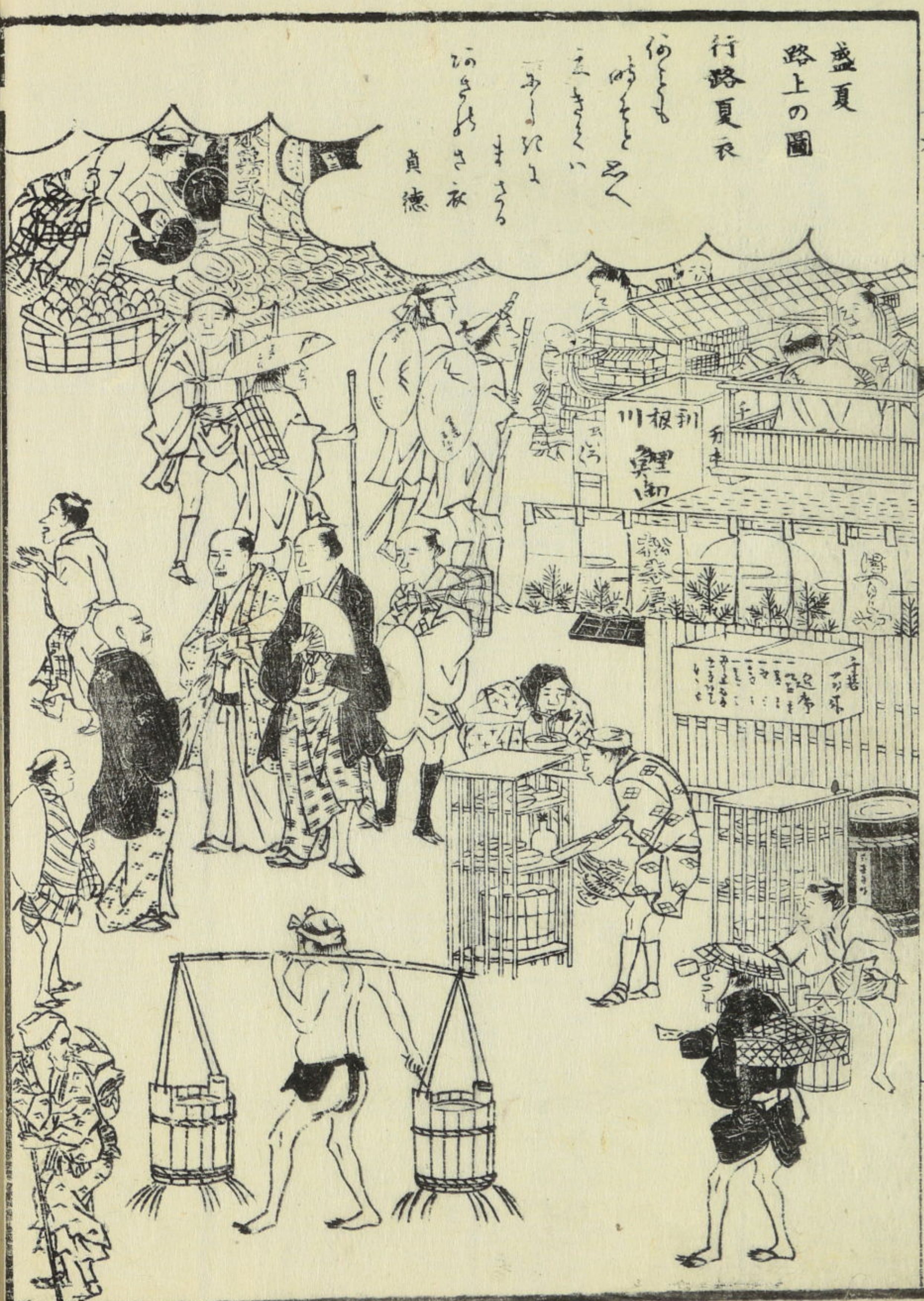
蛇

界滬





盛夏
路上の圖
行路夏衣
何れも
あつた
さきへい
みえり
はなれ
衣
貞徳



卷之十

彦子ノ町、通子同 同二丁目 同三丁目 同早目 元冒市町 同不登屋敷 西河原町
 吉野町 桑町 橋屋敷 三筑屋敷 長坂町 平松町 幸烟町 本枝木町幸子同 同二丁目
 小松町 佐肉町 川瀬石町 元大二町 南油町 杉本町 敷家屋敷 蒲屋町 岩倉町
 栢正町 本枝木町幸子同 幸子町 杉本町 乃木屋敷 田中屋敷 上二松町 油絞切 上松町
 後河町 松本屋敷 祖父平屋敷 南松町 大浜町 正木町 桶町 桑倉
 桑倉桑 桶町 南賴町 南漆師町 本枝木町六丁目 同三丁目 松川町 南左町 南歌作町
 泣木町 同幡町 本枝木町七丁目 乃盛町 柳町 具足町 幸町 幸子連町 小紺屋敷 白雲屋敷
 炭町 本枝木町八丁目 幸子屋敷 銀座幸子同 同二丁目 同裏河原 同三丁目 宮元南坊町

素子、天土の貴船、明神の相成なり。
経典、小舟に天王親臨す。

法華休閑のお教ありとて、
屋敷で南子の神臺と海中は

昇入より南に支社の神輿中の橋まで引あひし。旅所南にあらざる故にこの橋と引違の橋といふ。旅所を南にとりしは誤申。往還の内、東側は坂屋をあらうと誤申。ふくし乃坪と稱する今日より十九日迄、旅所ありとの証むいふん方なり。支社も亦亦と論と糸川の境迄南に、較洲の所よりある又浦より西の村にも産子なり。

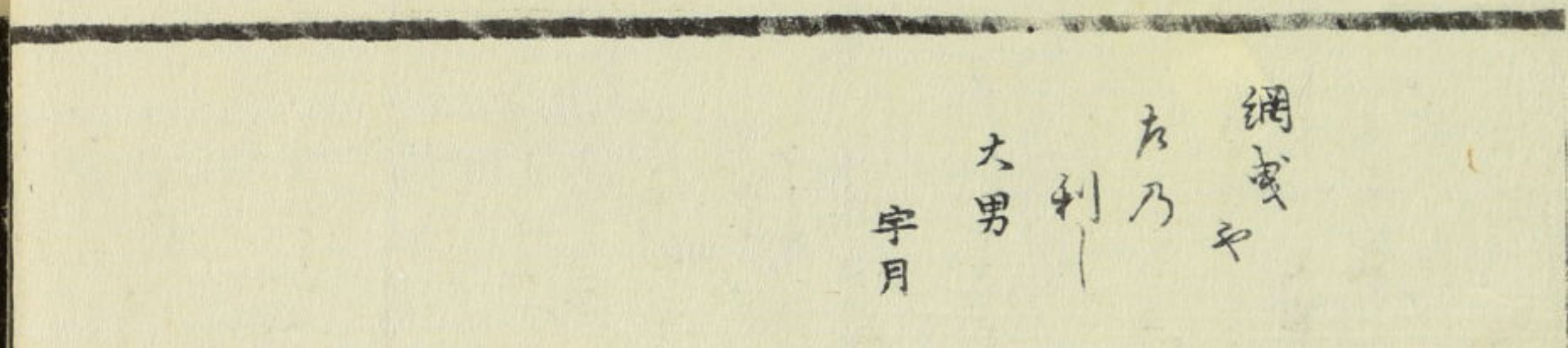
男達大に老 和歌の心遣はけを知らず
より休養を移さ今朝未だ産子のおとこ強よ

孟子と對し、林某へ收む諸人は、主として、疫癘除のもつて、益すべからざるを、
混雜の中外、亦、世に依る、孟子と、福乎、今、自、神靈、林、師、り、神、異、林、某、と、復、す、乃、筋、町、た、の、如、く、

見



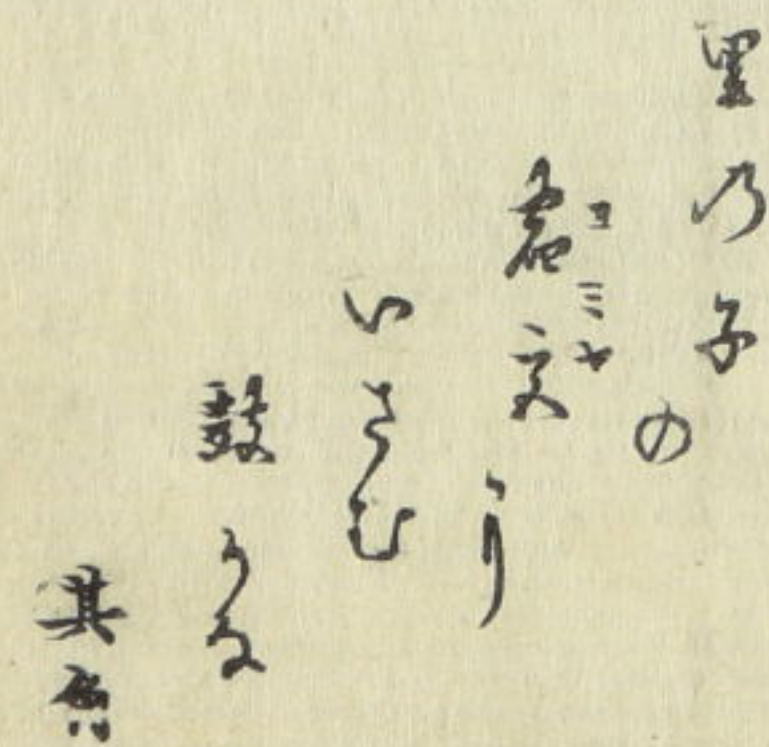
字月



九日○淺草鳥越明神祭禮

の町より玉の橋を渡りたる所、一帯は神輿に隔年今日唐子の町と云ふ

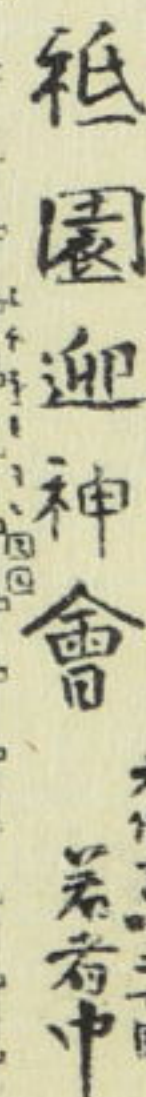
不約本社の東より南へ元々越前福富町を丁目事給ふ所松院門
 前へ二筋町南へを越前作良越へ武家地より二筋町又本社の前を内堀渡り猿屋町
 と此田家の藩のより天王町の森帯へ出天王社前より引返り為越堀渡り森田所
 まへ越へ新堀堀小堀渡りまよ本社の前へ武家地小笠原松平家門より小堀の渡
 りより又大久保家土家東へ戸田家の二筋町渡りより新堀堀少へ出座より小堀渡り
 津念も横より出座り同様の家々前後町代地同様の場は流ひてまよの森帯大通りへ



まきの
しめ
汁の
湯代より
あゝの
えつ
あゝ
あゝ

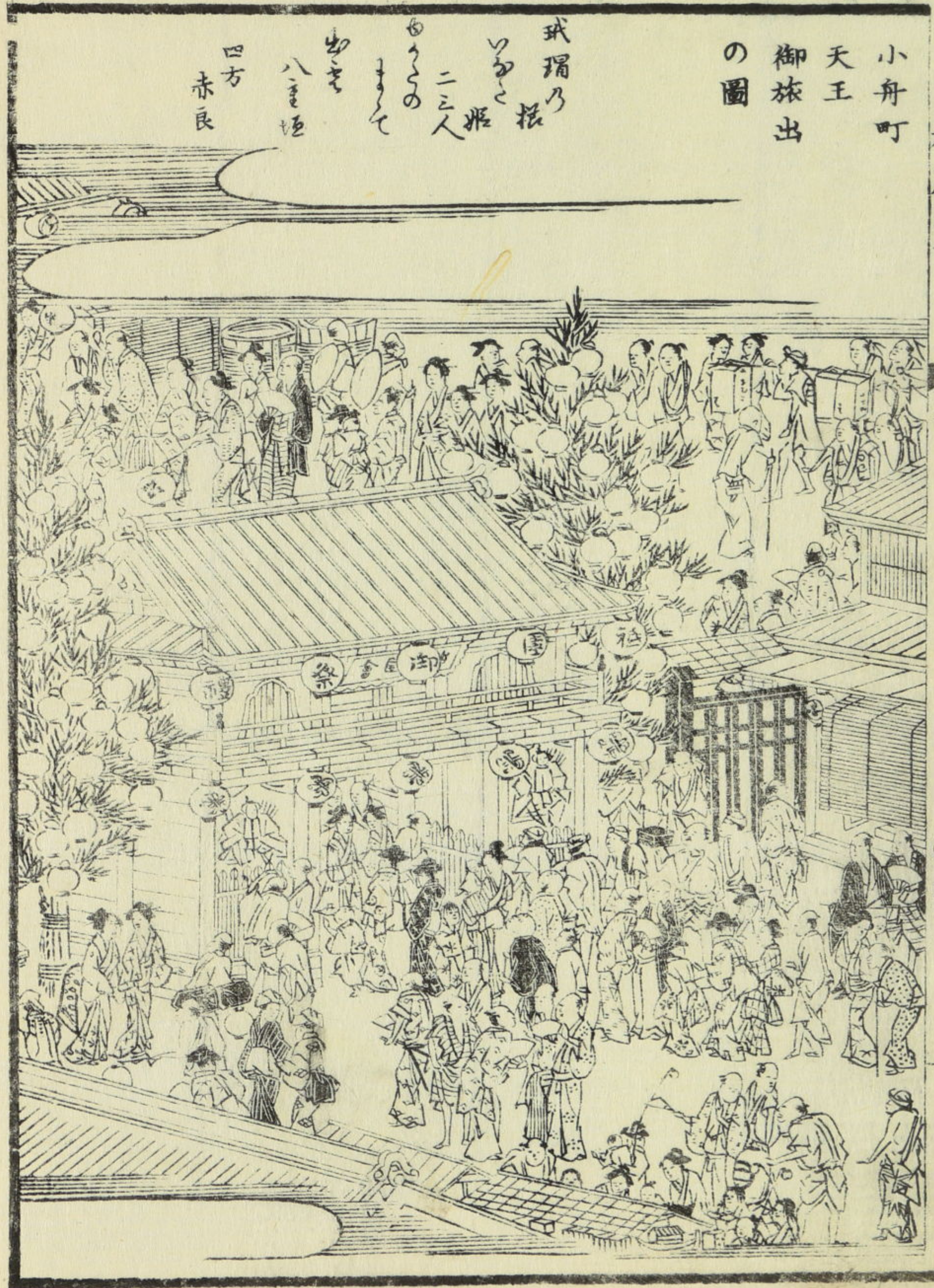


茶店



小舟町
天王
御旅出
の圖

武瑠乃
つる
二三人
まて
物
八
四方
赤良



御旅所

八束髮兮十
握劍斬蛇寸
寸素尊威本
朝豈奉異邦
鬼莫道鐘殞
粘戶扉

聞齋

進雄尊御祭禮

日本橋西川岸
氏子中

氏子中

十三日 破社乃筋申刻に飯屋と出て小舟町二丁目三丁目をへあゝめ橋中より戻り堀留
を今目より衣へ大横町通り衣へ本所町早目三丁目衣へ今川橋通り須田町より筋遠
所門と出て河原通り聖堂徳の坂より衣へ登り社地へ還興あり
産子の町へ小幡町早目 同二丁目 同三丁目 元溪町 楊町早目 同三丁目 同三丁目 同早目

産子の町く、小幡町亭子目 同二丁目 同三丁目 元浜町 橋町亭子目 同二丁目 同三丁目 同亭子目
 新八坂町 宝町亭子目 同二丁目 湫戸揚町 本町三丁目裏河原 多崎町亭子目 同二丁目 同三丁目
 同亭子目 富平町亭子目 堀敷町亭子目 同二丁目 本町三丁目 同二丁目 元六坂町 安計町
 品川町 岡裏河原 村松町 若松町 久松町 美浜町 横心同朋町 長谷川町 通達町 本石町
 三丁目 同亭子目 飛井町 小幡町上町 岡代地 長谷屋敷 小細町亭子目 同二丁目 同三丁目
 岡亭町目横町 宝成町 田石町 豊油町 杉枝本町 下柳東同朋町 岡杉地 堺町 若代町
 堀江町亭子目 同二丁目 同三丁目 同亭子目 堀江六新町 菅屋町 汐勢町 鉢巻町 猪鹿町
 東浜町亭子目 同二丁目 同三丁目 吉川町 横山町亭子目 同二丁目 同三丁目 荻野堀理立
 新栄揚町 庄介屋敷 長久保屋敷 本新町 長浜町亭子目 同二丁目 宮元小舟町あかり
 十一日○大塚護国寺山内富士参り十三日近条詣あり

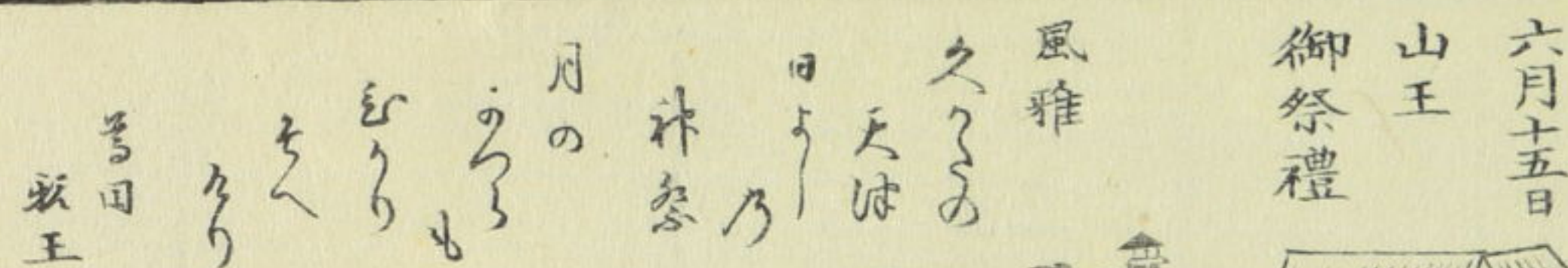
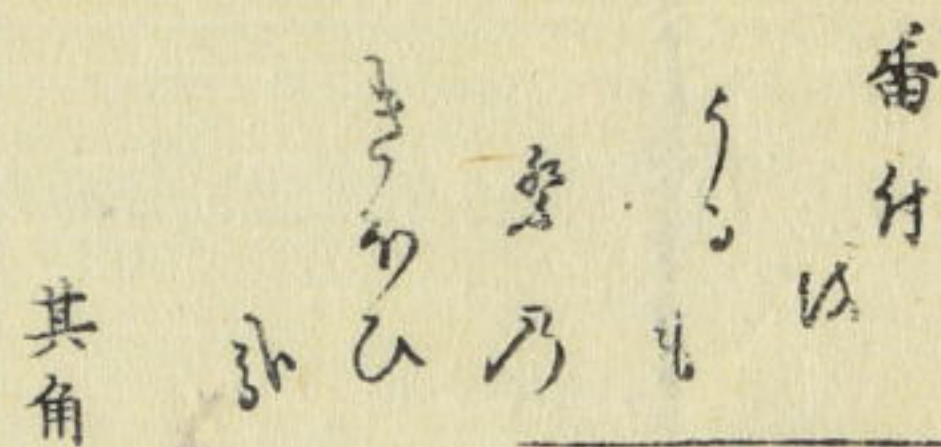
十冒○今日龜戶番取太神宮祭禮

神
香
反
天

今晩宴の刻より作楽獅子踊ホ
兵戸出村木の村々を渡りたる

當社の山飯屋とて吾妻森より東田の中ふりゝゝの地あり姓古繁乳乾りゝ船氏傳
ゝり切と流ゝその止りゝる取山腰掛と寧むゝとて創切と流ゝるゝこの取止る
仍て山腰掛と定め繁乳の晴け地へ社臺を遷すゝなる姓古ゝの地海あり在ゝ此の
例とりや繁乳の式如てゝゝへ（の傳りて山供とて小臺とふゝゝと是へき繁乳の臺と粉の
粉とてうけて薄の箸とてやへて山飯屋とて室あり供ゝ唐子の人氏も是と食ひ姓古
此の辺人民少く物乏ゝゝゝ此のゝゝゝゝ智めて今ゝゝゝゝと也

○小村井村番久太社文繁今ぬ日親仍初當宿妻森室蓮とゝ兼弟以社幣と換ゝ遷と



寛文上梓
江戸名所記

福り

そわ

ひやせ

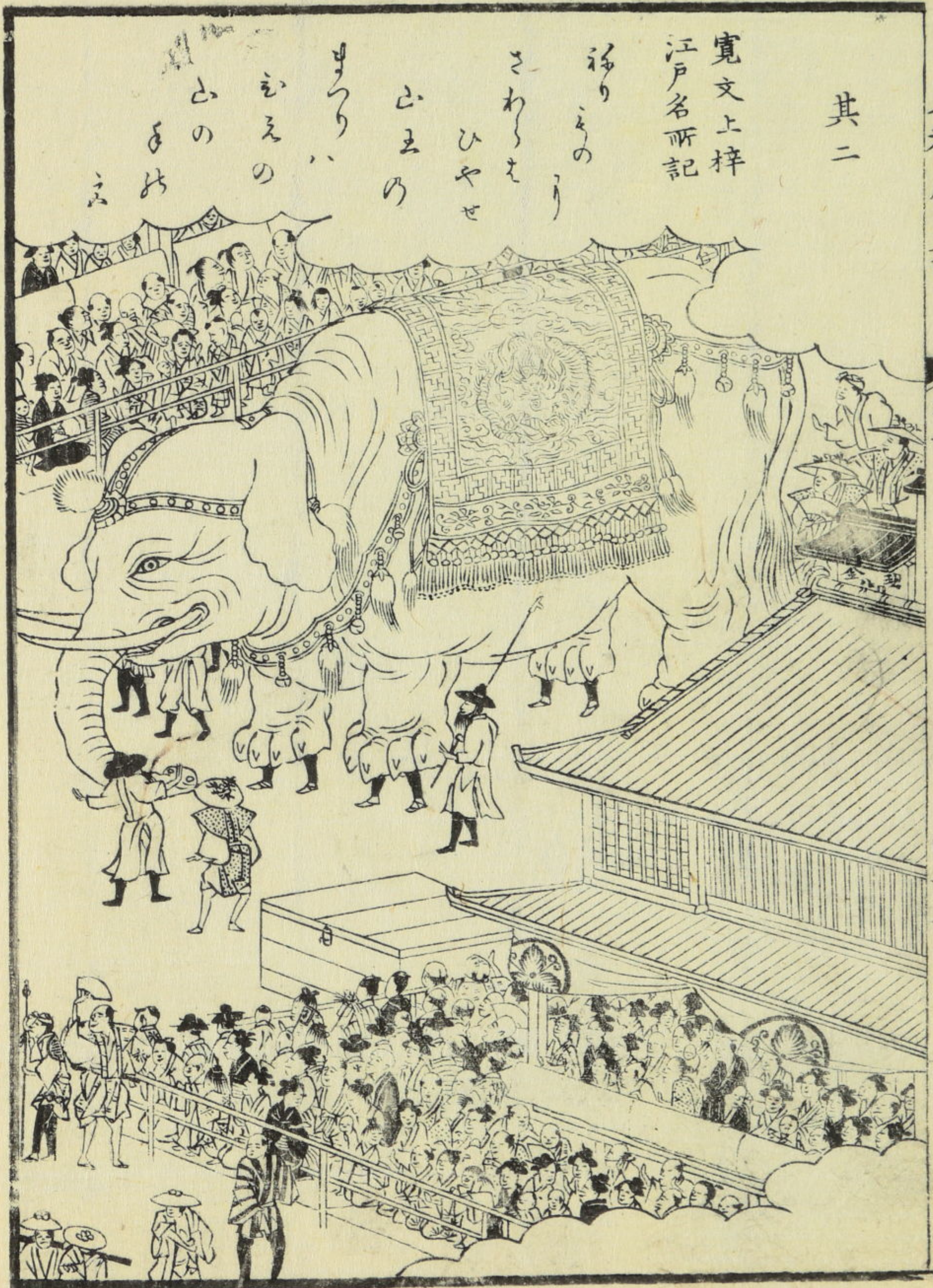
己丑卯

三

主
え
の

ふ
の

手
站



又元禄閣板の

江戶名所

孝子

之

山

上子紙

徑

のせり

時
以
山
主
人

梨の方玄

少々

11

五

10

又元禄岡板の
江戸名所
を家々も
さあへ
ひやせと
いふは
枉み
のせり
此頃止
祭の方
少やある

石へ大橋る町亭丁用と云り同二丁目田所町右へ堀通二丁目亭丁用より左へふ舟町なり小細
町とを接湊橋渡り右へ是岩橋渡り芽場町なりより新張所より此は京を奉幣ゆり社殿
既転まじより海城橋渡り喜揚町よりをき丁同へ出大通りと尾張町まで右へ山下町ふ
山下町門と入り元のた筋と通市本社へ還安あり○年中乃度大成又之都祭祀法内
系師ハ維國會大坂ハ天満祭江戸ハ山王祭会々て日本の三大祭と云とり「祭書」そ
天下祭也上車其角「歳時」と書しむもののみやひり終全

別當大衆院 園土記云天武天皇二年甲戌十一月始て神祀を以てあり

丑卯己未酉亥の年隔年ニ執事ありて十四日より迄へり十六日ありは往來人當りて
 得る通りをゆゑこれより王権現社田町は續々大正化より春子の町に六谷より
 移りてとて花菜とせり以て列は番組たのあり
 林 神子 猿田彦 獅子頭二一番 赤坂表傳町丁目二番 同二丁目三番 同裏
 傳町町丁目四番 同二丁目五番 同二丁目六番 元赤坂町町代地八番 赤坂町丁目二丁目
 二丁目九番 同二丁目六丁目 十一番 赤坂一本町魚店大沢町十三番 元大沢町十四番 赤坂町
 町丁目十五番 同二丁目二丁目十六番 同二丁目六丁目 以上二十一町 横二本 河津井 仲雲
 二基 仲雲騎 社家二人 別為乗輿 毛槍二十筋
 今新六時より始り氷川社希方へ武家地より赤坂町通六丁目より本町同表傳町
 町丁目より南へ同二丁目と一本町の町丁より返り元の表傳町二丁目と
 本町町の町より入裏傳町二丁目町の町より右へ同三丁目元赤坂町とより同町と裏傳町
 二丁目の町より同二丁目の町より左へ赤坂新門外廣小路より右へ表傳町町丁目へ
 入る元赤坂町代地と一本町の町より本町町の町と松平藤羽度町屋敷あり
 の町より左へ新町町丁目と武家の町より左へ同町町丁目六丁目の横より入る元武家地

○淺茅之社
現祭紀

○橋場牛頭天王祭祀

○山谷塾田明紳祭祀

とよゝろく同一年より中絶を一番沙草新爲越寺同
四番同之丁目五番同之丁目六番同之丁目今戸町未以上六丁なり

○隅田水神社祭禮

別當多門寺神妻
二基並和寺

○柳花妙見宮闈帳

別處
法性寺

○高田宝泉寺

水編
荷肉

富士系十八日迄

諸人羣集、去駒込へ全一く麦葉の蛇を
集り、存中、永樂、居法、商人多く出づ。

○雜司宮鬼子母并弟雛の御事を辺の農父集りて社辺の事を討拂ふの事ありを
ひ事なり ○白土権現裏門通り妙傳寺妙見宮因帳

○芝浦
○六郷

小幡綱十四日迄製禁みて今日をおろし十六日と賣初る由お板より云ひ今迄沙汰あり
八幡宮祭祀 別当建長寺六人の惣持よりあり神楽寺基羽田よりあり大師河原
へ針車あり宮村同月の矛蹄陣本あり

○河嶺山王權現祭祀

仕司江本氏十三日より十六日迄あり今日尚目より往來二基
波田村の旅更々往來あり区中少く花出し踊り等出でて旅へる

十六日○嘉祥街祝俊諸侯登城良賤佳節乞祝

家々を製して中條の
者ハ強ク又之を以て食物

と個人食するふつてい

ふー人の例ふうふや

○山王御社礼参王
○真妻森台妻権規衆

衆の装束を主修りて、今迄き日籍の非徒以て羣衆を

十七日○キダ木下川藥師堂

神君濟神影出拂之祥禮とあり

○は時節より三度の芝居去用体とて狂言を体むこの習去用志をぬと名付く
若手の役や又是非申通り小つめの俳優あつて無引走をさびより好むといふ

十曾○ヨツ田谷天王稻荷祭礼

社勢神田の社家本村氏別當室嘉院今日より廿一日迄
に於ける町二丁目小側へ仮座敷ありてひて神楽一基の儀也

三



風藏古神
 祠不知何
 歲移應是
 巨靈小德
 南嶺與晴
 南嶺



六月廿四日
 芝愛宕社
 千日参



真先神明宮
夏越後

視吾堂集

おのろ

ゆき

すき

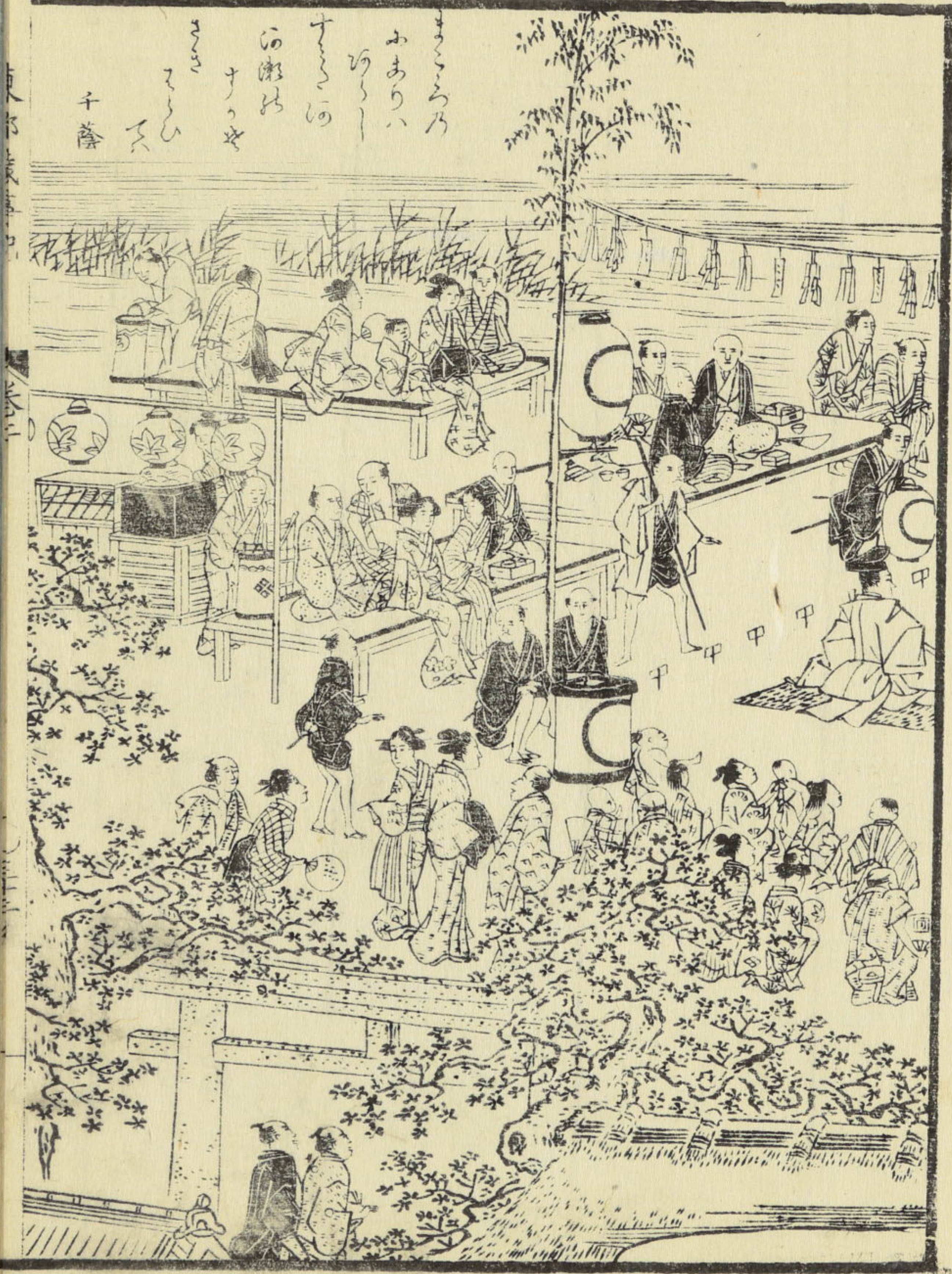
つ

き

な

し

吉川惟足



おのろ
ゆき
すき
つ
き
な
し
吉川惟足

○今秋より吉永仲^{ナカ}の町西側の茶屋より家毎に持の焼籠^{ヤカゴ}が出ず
奇麗と云ふやうに焼籠と云ふ人も花禽獸^{トリウサ}の形或は山々の風景と作り出すものと
又ハ遠くは勝遊女の乃中正月は同一目物のまは輾轉一毎鼓吹^{クイ}して繁囂^{ハヤカサ}を
よめるや一廓中焼籠の始りハ南町中万字屋の名妓玉菊といふうと西忌の追薦^{ツイゼン}は

○三十三冬

古今
小肚小冊集

小肚小胸集
のゝおのゝききはひうさうのそのまふぬまふむのまう

○出雲縁同ごころにゆゑ出雲の細子を多くつくして若衆なごころのあり

○ 手抄ひ麻どうろうりぐき桃灯を外毛くの燈籠桃灯作は今自あゝ落ハ

江戸歳事記卷之二終

